

むゆいず

104号
No.1104

2014(平成26)年
1月1日

生きていて
よがった
生がさねてきて
よがった
あなたに
めぐり
逢えながら
みつ



相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話 (072) 696-0666

FAX (072) 692-0769

新春法話

生も死も 老いも病いも そのままに

まかせてあゆむ ひとすじの道

(鍋島俊樹師)

ああ！新しい年を迎え、新たな
いのちをいただきました。

皆さま、あけましておめでと
うございます。

新しい年の元旦、まずはお家
のご仏壇に座り、お光りをあげ、
お香を焚き、家族揃って阿弥陀
さまにお礼のお勤めをいたしま
しょう。



仏教ではこう考える

小学校三年生(九歳)の子ども
さんからの質問です。

質問

みんな死んだら天国に行つて、
悪いことをした人は
地獄へ行くつて言つてるけど
本当なのですか？

答え

釈徹宗先生

九歳ということは小学校三
年生ですか？大切な質問をして



くれて、どうもありがとう。

昔、白隠はくいんというお坊さんがい

ました。あるとき、お侍が訪ねて
きて「地獄や極楽はあるのでしょ
うか？」とたずねました。(仏教
では、神さまたちの世界を天国、
仏さまの世界を極楽や浄土とい
います)。白隠はくいんは「そんなことが
気になるとは、お前はさうとう
な腰抜け侍じゃあな」と言っ
て。侍はものすごく怒って白隠はくいん
を刀で切ろうとします。まさに
刀が振り下ろされようとする瞬

間、「それっ—そこが地獄じゃー！」
と白隠はくいんは気迫のこもった声で言
います。侍は、はつと気づいて、あ
わてて刀をおさめ、その場に膝を
ついて「ありがとうございます」
とおわびとお礼を述べます。白
隠いんは「それ、そこが極楽じゃー」
と、にっこり笑ったそうです。

白隠はくいんさんのように、自分の心
に極楽や天国や地獄があると考
えると、ひとそれぞれの天国や地
獄があるということなのかもし
れませんか。この白隠はくいんさんも、あ
なたのように小さなころから地
獄について考えた人なんですよ。
世の中には「死んだらそれで
おしまい」と考えて生きる人も
いるし、「死んだらお浄土に生ま
れる」と信じて生きる人もいま
す。どちらが正解というもので
はありませんが、「死」を考える
ということが「生きる」ことに直



11月9日 報恩講1日目のご講師、野村康治先生

結しているのはたしかです。ですから、「死」にどう向き合うかということ、生き方はちがってくるんじゃないでしょうか。

私は、浄土とは帰っていく世界だと思っています。そして、死ぬことや死んだ後のことは仏さまにおまかせしようと思ってるんです。だって、自分の力でコントロールできるようなことではないでしょ？



11月10日 平成25年度 萬徳寺仏教婦人会総会

私は仏さまでも神さまでもないの、一悪い人が地獄で、いい人が天国」ということがほんとうかどうか、わかりません。でも、死んだら、浄土に生まれるような生き方を、いま、しようと思っています。

だって、帰る世界がある生き方のほうが幸せだと思いませんか？

※釈徹宗著『仏教ではこう考える』から頂きました。



11月10日 報恩講2日目のご講師、佐々木大照先生

平成二十六年(二〇二四年) 年回表

一周忌	平成二十五年	往生
三回忌	平成二十四年	往生
七回忌	平成二十年	往生
十三回忌	平成十四年	往生
十七回忌	平成十年	往生
二十五回忌	平成二年	往生
三十三回忌	昭和五十七年	往生
五十回忌	昭和四十年	往生

※亡き方を通して、今私たちは一生懸命生きていますよ、とのお心をお忘れにならないようにお勤め下さい。お家のご都合で、祥月命日が過ぎててもよろしいですよ。

萬徳寺平成二十六年(二〇二四年) 年間行事予定表

- ◎本願寺ご正忌報恩講団体参拝 仏教婦人会 一月十日(金)
- 仏教壮年会 一月十三日(月)
- ◎門徒冥加金勘定日 一月二十六日(日)
- ◎仏教婦人会常例法座 二月、九月
- ◎花まつり 四月八日(火)
- ◎永代経法座 四月十二日(土)、十三日(日) (講師 武田達城師)
- ◎人生講座 六月二十九日(日) (法話と音楽コンサート)
- ◎お経の練習会 八月下旬
- ◎報恩講法座 十一月八日(土)、九日(日) (菅屋市西法寺 上原大信師)
- ◎除夜会 十二月三十一日(水)



住職のひとり言



◆ 今年も一日一度でよい

有り難いなあと感じよう

辛い事でもやり遂げよう

笑顔でやさしく語りかけよう

◆ 二〇一四年、あけましておめでとうございます。今年も阿弥陀さまの慈光に照らされて、明るく、元気で、いただいたい。のちに感謝する人生を歩ませていただきましょう。

◆ 住職として、通夜・葬儀のご縁によく遇わせていただきませんが、祖父母の葬儀ではよく小さなお孫さん達がちょこんと静かに座っています。そのことも達に、祖父母の死別の縁に親御さんが遇わせていただきたくこの頃強く思います。

自分たちを可愛がってくれた、祖父や祖母が亡くなり、身体がどんどん冷たくなっていく。その周りで、多くの身内たちが亡くなった人との思い出を語りながら哀し^{かな}んでいる。火葬場で見送り、そしてそして小さなお骨を拾う。この体験の中で、私たちは、死に対する恐れを学び、そして今を生きていること、すばらしさ、命の大切さを知るのではないのでしょうか。

今、死は、私たち親がこどもに必ず教えずにはならないことだと思えます。可愛がっていたペットの死でも、親戚の人の死でも

いいです。必ずその死にきちんと向き合わせる。死の恐ろしさ、哀しさ、理不尽さをきちんと子ども達に伝えること。これが子ども達のころに自らの命だけでなく、他者の命、生きとし生けるものすべての命の尊さをここに刻み込む大きな一因となると思えます。こども達に、きちんと死を伝えましょう。

個人情報により非表示にさせていただきます。

ご家族にとってかけがえのない方が

安養^{あんじょう}の浄土へ還っていかれました。父、母、子、それぞれがご家族の中で、あたりまえの日常を送っていたことが、実は、あたりまえではなかったのです。毎日が如来さまからいただいた「いのち」。そして今度は私たちが阿弥陀さまのお側、お浄土に参らせていただく番ですよ。愚痴、不満の日々から、感謝の日々に転じて下さいよ。亡くなられた方から、お念仏をいただいて下さい。ナンマンダブ

◆ 昨年、十二月の仏教婦人会総会におきまして役員改選があり、新たに会長に吉田禮子様、副会長に久保田春美様(書記)、河野芳子様(会計)が選出されました。今後の仏婦活動よろしくお願い申し上げます。

み仏を よぶ我が声は

み仏の 我をよびます み声なりけり

一日一度はお念仏申し上げます

我が声から出る南無阿弥陀仏は、阿弥陀さまの喚び声ですよ